

過熱 韓国関連ワイドショー

ワイドショーはほとんど見ないが、新聞の番組欄を毎日チェックしている。とにかく異常な韓国報道がつづく。標題の朝日新聞 9 月 6 日朝刊の記事を抜粋して紹介する。

リードから一テレビのワイドショーで韓国報道が過熱気味だ。日韓政府の対立をあおるように取り上げる番組もあり、出演者による韓国人へのヘイト発言まであった。競うように韓国を取り上げ、過激な言葉さえ電波に乗ってしまう底流には何があるのか。

CBC テレビ(TBS 系)の情報番組「ゴゴスマ」で先月、韓国で日本人女性が髪をつかまれたとされる映像を見た中部大学の武田邦彦特任教授が「日本男子も韓国女性が入ってきたら暴行しないといかん」などと発言。特定の国籍・民族を差別するヘイトスピーチにあたるとして批判が集まり、番組が謝罪する事態となった。

また、テレビ朝日系「ワイド!スクランブル」では、コメンテーターの黒鉄ヒロシ氏が、フリップに「断韓」と書いて国交断絶を呼びかけた。

ワイドショーでは、韓国を取り上げる時間が日を追って増えている。ニホンモニターのデータによると、取り上げた合計時間は、日本が韓国を「輸出優遇国 (ホワイト国)」から外すことを表明した 7 月の第 1 週(1~7 日)は 2 時間 53 分だったが、韓国が GSOMIA の破棄を発表した 8 月第 4 週(19~25 日)は 6 時間 40 分、第 5 週(26~9 月 1 日)には、13 時間 57 分となっている。



なぜ増えているのか。ある民放ワイドショーのプロデューサーは「韓国を扱うと、ずっと視聴率は高い。今、全局で韓国報道一色なのは、完全に視聴者がついてきているから」と話す。

視聴者の韓国への関心の根源には何があるのか。ジャーナリストの青木理さんは、「日本人の心の隅っこに民族差別や朝鮮差別が一定程度ある」と分析した上で、まずは北朝鮮バッシングがあったと見ている。「拉致問題が目目された 2002 年の日朝首脳会談後、まず外交で『何を言ってもいい』という空気が国民に醸成されたのでは」と語る。

時を同じくして日本の成長が停滞し、不安や自信の喪失を感じる人が増えた。そこに「マンガ嫌韓流」やヘイト活動をする団体の登場、ネットでの過激な言説の広がりがあり、潜在的にあった差別意識が外に出るようになったと指摘する。

青木さんは「メディアがあおるようなことだけは絶対にしてはいけない」と警鐘を鳴らす。「差別は欲情を刺激して、燃え広がりやすい。ひとたび燃え広がれば收拾がつかなくなる。それを抑えるのがメディアの役割ではないだろうか」

(2019 年 9 月 10 日)